

# コロナ禍の新スタイルで実施する「地域(まち)のがっこう」

特定非営利活動法人なごみ

(関係課：地域コミュニティ推進課・生涯学習企画課)

事業費 294,470 円

助成額 221,000 円

## ●当初の課題・事業目的

本事業は、住民が主体となり様々な世代が楽しみながら“自分たちが暮らすまち”を学ぶ「がっこう」を実施することにより、人財発掘と地域づくりを進め、ひとつの実践モデルとして発信することです。平成30年度、令和1年度と協働事業で実施してきた「地域のがっこう」事業を、コロナ禍でも実施可能な形へ変化させて開催し、地域の若い世代が中心となって企画し多世代が参加できる授業を実施することで、地域の空気を変化させていきたいと考えています。



理事長 坪倉 勝

## ●事業概要

これまで2年間は公民館等の室内を利用し、対面・集団で「まちのことを学ぶ授業」を実施してきましたが、体制新たにオンライン（Zoom）を活用したり、家族や友人・隣人とチームやグループで参加できる授業スタイルや、屋外授業・自宅から参加できる授業などを考え、実施しました。

12月には「ゴミ」、2月には「防災」という住民の生活に馴染みのあるテーマの中で、様々な世代が楽しんで参加できる授業内容を考えた結果、ゴミをテーマにした5つのミッションをクリアしながらまち歩きをする『Gomission ラリー』や、地元の高校生・大学生とオリジナルで作った『防災スゴロク』を活用した授業を実施しました。授業はどの世代からも好評で、今後も継続して地域で実施できる形を作ることが出来ました。



## ●事業の成果・工夫した点

2年目までは、法人内で「まちのがっこう」運営委員という担当者を決めて実施していましたが、今年度は地元の高校生・大学生で関心のある7名を「企画スタッフ」として巻き込み内容を考えました。授業当日はもちろんのこと、準備段階でも地域の事、授業の内容を話し合う時間が有意義なものになりました。

## ●苦勞した点・今後の課題

同じテーマの活動(授業)を未就学児から高齢の方まで全員が楽しみ、そして学びのある授業にすることや、その授業をオンラインでも質を落とさずに実施する体制を整えることが非常に難しい点でした。またオンライン授業への参加のハードルをどれだけ今後さげていけるかも課題だと感じました。

## ●代表者の感想

コロナ禍で地域活動のほとんどが活動を中止している中で、本事業だけを実施することはなかなか難しい部分もありましたが、実施して良かったと思います。特に地元の若者メンバーと意見を交え、企画を創り上げた時間はとても有意義な時間でした。